

【ギタリスト超初心者講座～第3回～】リズムを「食う」という感覚

では第3回、やっていきましょう。

まずは、一つ目のリズムパターン。

ブラッシングで弾いたり、2小節目のようにコードをストロークしたり、
どちらでも練習してみてくださいね。

動画をよく見て、リズムを繋げる場所とストロークの感覚をつかんでください。

次にリズムの『オモテ』と『ウラ』の話。

今回は8分音符のフレーズなので、8分音符のオモテとウラを解説しています。
(※16分音符にもオモテ、ウラ概念はありますが、それは後でやります)

これはもう単純な話で、どちらがオモテでどちらがウラなのかは、
以下の譜面の通りです。

今やっているストロークのパターンでいうならば、

ダウンストロークをしている場所が8分音符のオモテで、
アップストロークをしている場所が、8分音符のウラです。

この、リズムのオモテ、ウラという表現は音楽用語としてよく出てくるので、
覚えておきましょう。

ちなみに、最初の譜面のストロークのパターンに、
第1回でやったコードチェンジをつけるとこんな感じになります。

The image displays a musical score for S-Guitar (S-Gt) in 4/4 time. It consists of two systems of notation. The first system covers measures 1 and 2, and the second system covers measures 3 and 4. Each system includes a standard musical staff with a treble clef and a guitar tablature (TAB) staff below it. The tablature uses numbers 0-2 to indicate fret positions and 'X' for strings that are muted. Chord diagrams are placed below the tablature for each measure, with 'V' indicating a barre. The first system starts with a *mf* dynamic marking. The notation shows a rhythmic pattern of eighth notes, with downstrokes (オモテ) and upstrokes (ウラ) alternating. The chord progression in the first system is G major (measures 1-2), and the second system shows a change to D major (measures 3-4).

この4小節を繰り返す練習もしてみましょう。

では、2つ目のパターンにいきましょう。

1つ目のパターンとは、繋げる場所が変わります。

これも動画を良く見て、ストロークでピックを当てる場所、当てない場所、そこを掴んでください。

このリズムでも、コードチェンジを入れたりして、自分なりに色々と試してみましょう。

これを、一つ目のパターンと組み合わせるとこんな感じ。

第1回、第2回でやったエクササイズ比べると、だいぶ曲っぽくなっているのがわかると思います。

それでは最後に『リズムを食う』というコト、これについてやっていきましょう。

ざっくりと説明すると、今弾いている小節の最後と、次の小節の頭を繋げることになります。

前の小節から、次の小節のリズムに、
『食って』入っている

まあ、これは、言葉で説明されるよりも、動画を見て感じをつかんでもらった方が
きっとわかりやすいでしょう。

コード進行をつけると、よりわかりやすくなると思います。

次の小節に食って入る場合、コードチェンジがあれば、赤丸で囲った場所で、
先にコードチェンジしてしまいます。

さて、色々なパターンをやってきましたが、どうでしょうか？

慣れるまではちょっと難しいかもしれません。

でも、いつも言っていますね？

重要なのは、焦らず、じっくり、ゆっくり、やっていくこと。

各動作を、1つ1つクリアしていく感じで。

上手いかないときは、マスターすることを1つだけに絞りましょう。
(可能なら、複合的に練習してもOKです。)

続けていけば、必ずどんな事も弾けるようになりますので。

では、今回は以上です。

ありがとうございました。

大沼